

法」をよく読んで、指導教員の指導のもと、書類作成、申請手続き等を行うこと。

研修期間は1学期または2学期とする。

2. 海外特別研修履修の方法

- (1) 指導教員・研修担当教員とよく相談し、研究調査の指導を受けられる海外の研究機関または大学院を選定する。
- (2) 研究調査の指導を受ける機関から受け入れの内諾を得る。
- (3) ①「海外特別研修・単位修得申請書」、②「研究計画書」、③「誓約書」を大学院事務室に提出する。
※受け入れ機関の概要及び主たる活動、予定されている活動を記した別紙を添付する。
- (4) 研修を開始する前に、自身で適切な保険（海外保険や留学保険など。賠償責任保険を含むもの）に加入し、契約内容について大学院事務室に報告する。
- (5) 研修を終了して帰国後2週間以内（長期休業中の場合は、翌学期開始から2週間以内）に、④「研究報告書」を大学院事務室に提出する。

※①～④の書類は本学ホームページ上でダウンロードすること。

3. その他

海外特別研修の期間となる学期は、本大学院の科目に履修登録することができない。

※研修期間中に海外の研究機関または大学院において修得した単位については、帰国後、10単位を限度として修了に必要な単位として認定を申請することができる。（「履修要項」の「3. 単位の認定」の項目を参照）

※海外特別研修の単位（2または4単位）は上記の10単位には含まれない。

「インターン研修」履修の流れと注意事項

1. インターン研修の種類

- (1) 短期：2単位

【インターン認定条件】10日以上、計80時間以上（残業時間を含む）勤務。

（例：1日あたり8時間勤務×10日）

- (2) 長期：4単位

【インターン認定条件】20日以上、計160時間以上（残業時間を含む）勤務。

（例：1日あたり8時間勤務×20日）

※異なる機関でのインターンは合算を認める。

※短期のインターンは「インターン研修（短期・春）」と「インターン研修（短期・秋）」の両方を履修できる。

※長期のインターンは「インターン研修（長期・春）」あるいは「インターン研修（長期・秋）」のいずれか一方のみしか履修できない。

2. インターン研修履修の方法

以下をよく読んで、指導教員・研修担当教員と相談のうえ、インターン先の選定、書類作成、申請手続き等を行うこと。①～④の書類は本学ホームページ上でダウンロードすること。

- (1) 自ら研修内容を精査し、勤務時間・日数などの条件を確認したうえで、有意義な研修が可能となる組織・機関を選定する。
※選定にあたり、不明な点は指導教員・研修担当教員とよく相談すること。
- (2) 研修を予定している学期の履修登録期間にオンライン履修登録をする。
- (3) 研修希望先へ受け入れの可否を確認し、研修受け入れの内諾を得る。
※公募の場合は申請手続き等を行う。
- (4) ①「インターン研修 科目登録申請書」、②「学習院女子大学大学院 インターン研修志望者 身上書」を研修担当教員に提出する。
※受け入れ先組織の概要及び主たる活動、予定されているインターン活動を記した別紙を添付する（公募の場合は業務内容を記した募集要項等にかえることが可能である）。
※書類提出時点で、学生が既にインターンとして過ごしていた場合、それまでの日数については、これを認定しない。
- (5) 受け入れ機関より覚書等を求められた場合、これが研究科にかかわる場合は研修担当教員に相談の上、研究科へ提出する。
- (6) 研究科委員会での志望インターン研修内容にかかわる審議・承認を経て、インターン研修を開始する。
※審議前にインターン研修を開始することは可能だが、場合によっては承認されないこともある。
- (7) インターン開始にあたっては、大学院事務室でインターン賠償責任保険（実費〈平成29年度は210円〉を負担）の加入手続きを行わなければならない。
- (8) 研修終了後2週間以内（長期休業中の場合は、翌学期開始から2週間以内）に、③「研修報告書」および④「実習日誌」を研修担当教員に提出する。

3. その他

- (1) 個人情報の取り扱いについて

学生は、身上書等の個人情報がインターン受け入れ機関の事務業務範囲内で送付されることを了承するものとする（身上書への押印が必要）。本大学院に保管される身上書等の個人情報は厳重な管理の下、原則、大学院修了後、3年間保管後、破棄する。

履修科目をどのように選択するか（プログラム別科目履修例）

次の表はプログラムごとに履修が望ましい科目を例示している。しかし、履修に際しては、この表で区分した科目に制約されることなく、他のプログラムの科目として記載されている科目も履修することができる。

最終的に履修する科目については、修士課程在学中の研究課題、修了後の進路と照らし合わせ、指導教員とよく相談し決定すること。